

思食らめど、心ぐるしくおぼえ侍きトアリ、

〔増鏡八飛鳥川〕十七日○文永九年二月の朝より、御けしきかはるとて善知識めさる、つひに其日の酉の時

に、御年五十三にてかくれさせ給ひぬ、後嵯峨院とぞ申める、ことしは文永九年なり、○中世中は

新院○後深草かくておはしませば、法皇○後嵯峨の御かはりに引うつして、さぞあらんと世の人もおも

ひ聞えけるに、當代○龜山の御ひとつすぢにてあるべきさまの御おきてなりけり、長講堂領又は

りまの國をはりの熱田の社などをぞ御そふんありける、○中いでや位におはしますにつきて、

さしあたりの御まつりごとなどはことわり也、新院にも若宮おはしませば、行すゑの一ふしは

なごかはなごいひしろふか、ればいつしか院方内方と、人の心々も引わかる、やうにうちつ

け事どもいできけり、人ひとりおはしまさぬ跡は、いみじき物にぞありける、

〔増鏡九草枕〕本院○後深草は、なほいとあやしかりける御身のすくせを、人の思ふらん事もすさまじう

おぼしむすぼゝれて、世をそむかんのまうけにて、尊號をもかへしたてまつらせ給へば、兵仗を

もとゝめんとて御隨身どもめして、祿かけいとまたまはする程いと心ぼそしと思ひあへり、○中

いまの時宗朝臣もいとめでたきものにて、本院のかく世をおぼしすてんする、いとかたじけ

なくあはれなる御事也、故院○後嵯峨の御おきてはやうこそあらめなれど、そこの御このかみに

て、させる御あやまりもおはしまさらん、いかでかはたちまちに名残なくはものし給ふべき、

いとたいぐしきわざなりとて、新院○龜山へも奏し、かなたこなたなごめ申て、東の御かたのわ

か宮○伏見を坊に立たてまつりぬ、十月五日、節會おこなはれていとめでたし、かゝればすこし御

心なぐさめて、此きははまひてそむかせたまふべき御道心にもあらねばおぼしとゞまりぬ、○中

いにしへの天智天皇と天武天皇とは、おなじ御腹の御はらからなり、その御すゑしばしばう

ちかはりく、世をまろしめしゝためしなごをも思ひやいでけん、御二ながれにて位にもおは